

第1回上益城地域リハビリテーション広域支援センター 研修会 グループワークでの意見

【1班】

《今回の話を聞いての感想、課題》

- ・連携して動いていくことが今後必要だと思う
- ・運動自体をメインにすることだけではなく、コミュニティを作っていくことが大事だが実際難しい。
- ・復興リハに関わっていない団体・企業への情報が少なく動きにくい。
- ・地域へ出て行く回数や依頼の増加にスタッフが追いつかない(人手・マンパワー)。
- ・仮設の集会場等うまく使えていない課題。
- ・コミュニティに参加したが顔見知りがない。参加したいコミュニティへの移動手段がないから参加できない課題。

【2班】

- ・集会場がない所の課題。
- ・サロンがあっても出てこない方がいる。
- ・避難依然がある
- ・ささえあいセンター、復興リハと共同で施設の入居者と一緒に。
- ・元気クラブなど御船町の強み。
- ・介護予防サポーターが減ってしまった。状況の変化。今後の支援者への負担など。
- ・土砂崩れで孤立した集落 → 精神面でのケアが大変だった。
- ・家で動く量が少ない。家でできる体操を教えているが・・・。
- ・近所付き合いでのサポート。

【3班】

《介護予防事業の問題点。仮設・総合事業》

- ・仮設の方ではない要支援 1～2/W 自宅で運動していない
→ 松尾先生のお話にあった。自宅では運動などしていないということ。
仮設の状況と同じと感じた。

- ・仮設での集まりの参加者が固定している(集まりのグループができている)
- ・くまカフェ:カレンダー作り等を実施している → 甲佐は囲碁等の趣味の会も出来ている。

先生にもraitたいアドバイスなど・・・

- ・仮設に日中いらっしゃらない方が多く、自宅に戻っている
→そうした地域性のアプローチ法

【4班】

《介護予防の問題点》

- ・もともと実施していたサロンが地震の影響で実施できなくなっている(会場が使えない)
→集まる場所をどのようにして再開していくか
- ・仮設住宅でのコミュニティーはまだまだ場所によってばらつきがある
- ・密着リハと復興リハの意見交換が必要
- ・仮設の住民も地域に帰るのが大前提であることを考えると、元々のサロンをどう再開させるかが課題

【6班】

《介護予防の問題点》

- ・役割 → ない人が不活発
- ・生活が丸見え → 仮設・・・今までつながっていた方が会いに行きにくい。
- ・みんなが集える場所の確保
- ・男性の参加や継続が困難
- ・サロンが以前よりも少なくなっている。

【7班】

《介護予防における課題と明日からでも取り組める事があれば》

- ・復興リハでは今、様々な活動を行いながら住民の興味がある事を探っている状況。
- ・課題→外に出てきてくれない方(無理に声掛けするタイミングが難しい←ハイリスク)
→信頼関係とコミュニケーションが大切、みんなの家での色々な声掛け
介護サービスが入っていればまだ・・・